

# 伝統の力で 優勝の喜びを

豊住中学校  
男子ソフトテニス部

豊住中学校は、生徒数が少ないので、男子の部活動はソフトテニス部とバスケットボール部の二つしかありません。ぼくたちソフトテニス部は、現在部員9人。本場にテニスが好きな仲間が集まっています。人数は少ないですが、その分たくさん練習ができます。

指導してくれる岩澤信吾先生は、一言で言うと熱血先生です。「声を出せ」とか打ったときにいい音がするようになるといつも大きな声が飛んできます。

昨年、3年生が都大会でベスト4(団体)に入りました。また、新チームでは、市文化祭大会で3位個人になり、とてもうれしかったです。走り込みなどの練習は、つらいこともあるけれど、欠かさず練習して目標である優勝の喜びを味わいたいと思います。



サービスエースをねらえ

豊住中の  
テニス部  
は、これ  
まで多くの  
先輩が県大



伝統と地域に支えられるテニス部



ミニゲームで試合動を養う

会出場を果たしている伝統ある部です。また、以前使っていたコートは地域の人たちの奉仕活動で作られるなど地域に支えられた部でもありません。この伝統を受け継いで、ぼくたちもがんばりたいと思います。応援してください。

# 市民の

一心不乱に



なかまと一緒(33)

## 仲間との研さんが上達の道

双葉書道会

わたしたちは、中央公民館で月に3回書道を行っています。公民館の書道教室からサークルができ、こととして22年目を迎えました。冠婚葬祭時に名前を上手に書きたい、毛筆で年賀状や手紙を書きたい、仕事で必要になったなど、書道を始めた動機はさまざまです。

書道は、体調の良しあしや精神的な面が如実に表れるものです。無理をして書いたり、忙しいときや気持ち不安定なときは、何度書いても駄目です。最近では経験を積むこと



作品を批評し、研さんに励む

によって一字一字の味わいが理解できるようになってきました。

わたしたちがいつも心掛けていることは、多くの秀作を見ること、お互いの作品を批評し合うことでみんなの感性を引き出すことです。大いに刺激を受け、もう一度書いてみようという意欲がわいてきます。遠慮することなく自由な発想でいろいろな意見を出し合い、研さんしてきたことが上達の道であったと信じています。

納得した字が書けてもこれだよいということはありません。今では筆を持つとほっとし、書道が生活の一部になるほど大切なものになりました。



書道は生活の一部です

# 待ち遠しい 北国の春

わたしのふるさは青森県の青森市です。青森市は、八甲田連峰や陸奥湾などの豊かな自然と青森ねぶた祭や三内丸山遺跡を代表とするロマンあふれる歴史に恵まれた町として有名です。

実家は市街地から少し離れたところにあり、子どものころは冬になると、かまくらを作ったり屋根から落ちた雪で傾斜を作りスキーをしてよく遊びました。駄菓子屋に行くのも小さいスキーで道路を滑って行ったものです。今は除雪車ですっきりきれいにされていますが。

雪化粧をまとった冬の八甲田山はとても美しく、反対側の陸奥湾の青それに青函連絡船の航跡と、まさに「津軽海峡冬景色」の絶景でした。家にいると青函連絡船の「ボ」という音がよく聞こえてきて、なつかしい



吉岡ひで子さん(和田)



冬の八甲田山

思い出となっています。

どんよりとした冬が長いので、北国の人は春が来るのを待ちに待っています。雪解けが始まり、雪の白と川の流れる水色、それに茶色の土の中からふきのとうが出てくると、春が来たという喜びがわいてきます。

夏はねぶた祭、太鼓と鈴、掛け声が夏の到来を告げます。子どものころは、町内ねぶたや子どもねぶたがありとても楽しみでした。

成田へは30年前に来て、天災や大雪もなくなつて住みやすいんだらうと驚きました。今ではすっかり慣れてしまい、雪景色が少し恋しいこのころです。

## ふるさとトーク(102) 青森県青森市

# ひろば



こんにちは  
赤ちゃん 88

提羅馬ちゃん(橋賀台)

スクスク  
のびのび 292

小野慧太くん(6歳) 橋賀台  
湊輔くん(4歳)

大きくなったら、バスケットボールの選手かパイロットになりたい慧太くんとウルトラマンになりたい湊輔くん。家族みんなでボードゲーム「ブロックス」で遊ぶのが楽しいよ。ママが一番強いけど、がんばって勝ちたいな。



網取珠希ちゃん(三里塚光ヶ丘)



ペット大好き 72



野村要一さん・彩帆さん(中台)  
ムク(オス)

犬を飼うのは初めてなので、飼い方やしつけなど、ご近所に教えてもらっています。今では家族がムクを中心に集まって、自然と話しも弾んでいますよ。